



CAJLE Newsletter

Number. 59
December 2019

カナダ日本語教育振興会

Canadian Association for Japanese Language Education

目次

会長の言葉	1
CAJLE2019 年次大会を振り返って	2
年次大会に参加して	3
アブストラクト賞受賞者の声	4
特集記事「日本語能力試験」	5
CAJLE2020 年次大会のご案内	8
ANNUAL CONFERENCE	
活動報告	10
◆日本語教師情報交換会	
◆継承語オンラインネットワーク	
学校紹介	11
◆JLC ビクトリア日本語幼稚園	
◆ガティノー読み聞かせ会	
国際交流基金コーナー	12
CAJLE よりお知らせ	13
2019 年上半期活動報告	14
編集後記	15
会員規定	16

Editors: Sawako Akai (Chief), Izumi Adachi, Tomoko Bailey Ujie, Mika Kimura

Copyright©CAJLE 2019

会長の言葉

CAJLE 会長 青木恵子

気がつけばもう 2010 年代も残すところわずかとなりました。あと 1 ヶ月で 2020 年代に突入しますが、「2020 年」なんて SF に出てくるような響きですね。十年ひと昔ということで CAJLE の記録を振り返ってみると、10 年前は多方面との連携が一気に広がった時期でした。2009 年 12 月に国際交流基金トロント日本文化センターとの共催事業「日本語教師情報交換会：日本語学習を継続させる」が始まり、2010 年 1 月には国際交流基金からさくらネットワーク中核メンバーの認定を受け、5 月には日本語教育学会の世界的なグローバルネットワーク (GN) プロジェクト「J-GAP」がカナダでも開始、9 月にはカナダ第二言語教師会 (CASLT) とのパートナーシップ調印、と 1 年で次々と「グローバル」につながっていきました。今やトロントでの「継続」は 30 回を数えますし、西のバンクーバーでも「継続」が始まり、この 12 月には 5 回目の集まりが予定されています。また、GN プロジェクトは J-GAP 終了後「セカイの日本語～みんなの声～」がヨーロッパ・オーストラリア (2016-17) のチームと共に始動し、今や国内を始め各地でワークショップを行っています。次の 10 年はどのように発展していくのでしょうか。

今年の夏ビクトリアでの年次大会は州内を始め、国内外から多くの参加者が集まり、急遽会場を変更するほどの大盛況となりました。参加がかなわなかった会員の皆様のために大会資料がアップロードされています。ぜひ会員限定エリアにログインしてご覧ください。すでに発表された通り、来年はオタワでの開催となります。「未来へ繋ぐ日本語教育：ことばと移動、変わり続けるグローバル社会で目指すこと」について、皆様と広く議論し、考察を深め、実践に生かしたいと考えております。

日本から大変おめでたいニュースが届きました。令和元年秋の叙勲にて初代会長・名誉理事でいらっしゃる中島和子先生 (トロント大学名誉教授) が瑞宝中綬章を受章なさいました。日加学術交流功労及び在留邦人への福祉功労が認められたものだそうです。先生の長年に渡るバイリンガル教育・継承語教育の研究成果とリーダーシップは、カナダのみならず世界中の教師・保護者・子供達にとってかけがえのない道しるべとなっています。我々も力を得た思いで、喜びいっぱいです。中島先生、おめでとうございます。

それでは、皆様、来年も健康で実り多き一年となりますよう。良いお年をお迎えください。

CAJLE 2019 年次大会を振り返って

大会実行委員長 木村美香

CAJLE2019年次大会は8月6日・7日にブリティッシュ・コロンビア州ビクトリア市ビクトリア大学で開催されました。有難いことに本年度もカナダ、アメリカ、日本、アジアから100名を超える日本語教育関係者にご参加いただきました。忙しいスケジュールの二日間でしたが、和やかな雰囲気の中、有意義な大会になりました。

本年度の大会は「表現リテラシー：コミュニケーションから考える多文化社会の日本語教育」をテーマにコミュニケーション教育を多角的に分析し、参加者が自分の教授法などを再考できるような機会を持つこと、そして参加者同士のネットワークの構築等を目的としていました。招聘講師にはコミュニケーション教育について様々な活動をしていらっしゃる平田オリザ先生をお迎えし、基調講演、教師研修を行っていただきました。平田先生のユーモア溢れる講演、研修を通し、まず参加者はコミュニケーションという活動について考え、先生が提唱される演劇的アプローチの理論や有効性について学びました。そして、コミュニケーション時に注目しなければならない「コンテキストのずれ」などを演劇的アプローチを使ったワークショップで実際に体験し、理解を深めました。国際交流基金・アルバータ州教育省からご参加くださった村上吉文先生は、多文化社会の中でのコミュニケーション活動でいかにソーシャルメディアが有効性であるかお話をいただきました。また、カナダ第二言語教師会(CASLT)からの講師、ブリティッシュ・コロンビア大学のウェンディ・カー先生は、カー先生が行なっているフィールドスクールを例に挙げ、異文化に接した際に学生自身の中で起こっている複雑な理解や内省のプロセスをわかりやすいイメージを使って説明くださり、多文化社会の中でのコミュニケーション時の考慮点等を示唆してくださいました。参加者による口頭発表、ポスター発表、ラウンドテーブルにも多種多様なトピックがあり、参加者は大会を通して多面的にコミュニケーション教育について考える機会が持てました。さらに、大会中は講演、研修、発表を通してだけでなく、昼食や休憩の時間や懇親会などの時間もリラックスした雰囲気の中で参加者同士が活発に意見交換や情報交換することもできました。

少し個人的な話になりますが、大会の実行委員長をさせていただき、準備期間、大会当日にはたくさんの方々と出会いや再会があり、皆さんのおかげでとても思い出深いものになりました。カナダは広い国で、学期中は他州の先生方と会うのが難しいため、年次大会でそのような先生方に一年に一回お会いできるのはこの大会の一つの楽しみでもあります。さらに、今回は初めてCAJLEの大会に参加してくださった方も多く、たくさんの新しい出会いがありました。開催地のビクトリアがあるバンクーバー島では、これまで先生間であまり情報交換などが行われていませんでしたが、この大会を機に情報交換会などをしたらどうかというような意見も出てきました。そして、この大会では私達ビクトリア大学の日本語教師にとって、感慨深い再会もありました。実は、今回の参加者の中には過去ビクトリア大学で日本語を勉強した学生が日本語教師となって参加してくれていました。このような日本語教師の繋がりが今後も広がっていくように、昨年からはCAJLEでもTwitterで大会関連情報、大会情報、大会当日の様子などをツイートしています。これからも会員だけでなく、広く多くの方にCAJLEの活動について知っていただくためにソーシャルメディアなどで情報発信し、新しい出会いの機会を提供していきたいと思っております。

最後になりましたが、大会を準備、開催するにあたり、多くの方にご支援いただきましたことに心より感謝申し上げます。国際交流基金、ビクトリア大学、高円宮日本教育センターを始め、諸企業、諸団体の皆様の温かいご支援や学生アシスタントの協力のおかげで、無事大会を開催することができました。また、今回初めて大会実行委員長を務めさせていただいた私を最後まで支えてくださいました野呂先生、島山先生には改めまして、お礼申し上げます。そして、本大会のために遠方よりお越しくくださった参加者の皆様にも深く感謝いたします。皆様にCAJLEの年次大会でまたお会いできますことを楽しみにしております。



大会集合写真

CAJLE 2019 年次大会に参加して

MATTHEW RUSSELL (OAK BAY SECONDARY SCHOOL)

This summer I had the privilege of attending the CAJLE annual conference. As a high school teacher, this was a completely unique experience for me. When it comes to professional development, high school teachers tend to look for opportunities that provide practical specific practices that they can immediately use in class. While I still think those specific classroom tips are important, I realized that we often forget to make time for understanding the research behind our respective fields. This is where the conference excelled.

Understanding some of the research that is available, helps answer some of the larger questions behind our teaching practices. This can force us to re-evaluate what we do in our classes, and why. The biggest professional revelation I've ever had came from simply asking myself what is the purpose of my Japanese program, and are the things I'm doing the most effective method of fulfilling that purpose. Furthermore, by understanding the applicable research, we increase our chances of being successful when we experiment with new methods or activities.

Beyond the research, the CAJLE conference was also helpful simply due to the fact that it was the largest gathering of Japanese language educators that I have ever attended. Usually when I'm doing my professional development, I have to try to adapt ideas from French or Spanish language teachers to work with Japanese. It was great being able to hear about how other teachers approach teaching specifically Japanese.

I would make one recommendation to other non-native Japanese speakers considering attending a conference. Don't be afraid to take a session off for your brain to recover. While I consider myself quite competent in Japanese, the academic nature of the presentations meant I really needed to concentrate to follow along. That being said, I did really appreciate some of those doing poster presentations helping me out with some English when we were discussing topics that became too technical and scientific for me to understand in Japanese.

I hope in the future that CAJLE will be able to continue to increase the participation of high school Japanese teachers. Cooperation between these two unfortunately isolated worlds can only help to increase the quality of Japanese language instruction in both high school and university.

鄭惠先（北海道大学）

個人的には2016年のナイアガラ大会、2017年のカルガリー大会に続き、今年で3回目の参加となるCAJLE2019（於）ビクトリアでした。もともと日韓対照研究が専門分野の私にとって、CAJLEについては前から名前は知っていたものの、日本とカナダの物理的距離以上の心的な距離感がありました。しかし、研究仲間に誘われてはじめて参加したナイアガラでのCAJLEで、運営側の細やかなご対応とアットホームな雰囲気によって、いつの間にか常連になりつつあって、今や「つぎの大会はどこだろう」と楽しみにしているほどです。

今年のビクトリア大会も充実した企画や発表が多く、自分にとって大変実りの多い時間となりました。とりわけ今年は、大会前日に行われた「日本語教師情報交換会」にも参加することができました。カナダの中等教育の中で日本文化の体験学習を実際に企画実施されている先生から直接さまざまな裏話を聞くことができ、日本とは異なる海外での日本語教育の現状について理解する良い機会となりました。これこそが、CAJLEの存在意義の1つなのだろうと実感できる時間でした。

毎年これだけ充実した大会が開催できるのは、目に見えないところで頑張ってくださいの執行部の皆さんの熱意と努力があるからこそのことだと思います。この場を借りて、皆さまのご尽力に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

年次大会アブストラクト賞受賞者の声

高円宮日本教育・研究センターからの助成を基に、大学院生を対象に、アブストラクト賞(最優秀賞、優秀賞)を設けています。受賞者の声をご紹介します。—編集部

竹内舞 (パデュー大学 博士課程)

初めて訪れる美しい街ビクトリアで、この度初めて CAJLE 年次大会に参加しました。本大会では「表現リテラシー：コミュニケーションから考える多文化社会の日本語教育」をテーマに、多種多様な興味深い研究発表や講演が行われました。演劇を取り入れた指導法やソーシャルメディアの活用など、今後の授業実践に活かせる様々なアイデアを得ることができました。

また、この度は輝かしい賞まで頂き、大変光栄に思っております。本大会では、語用論に焦点を当てた日本語ジェンダー表現の指導について発表しました。発表の際には、学習者の背景やアイデンティティについてなど、聴衆の皆様から数々の貴重なご意見やフィードバックを頂き、今後研究活動を続けていく上で大変参考になりました。発表時以外にも、昼食の時間やポスター発表、また休憩時間などに、諸先生方とお話しする機会がありました。研究や日本語の効果的な教授法など多岐に渡るお話をお伺いすることができ、本学会を通して大変有意義な時間を過ごすことができました。私の研究テーマのそもそもの着想は、どのようにすれば学習者の日本語運用能力により寄与できるかという点でした。CAJLE で様々なお話を伺い、これからも学習者に寄り添った研究をしていけたらという思いがさらに強くなりました。

今回、CAJLE 2019 年次大会で学んだことを今後の研究活動に活かし、より一層教師として、また研究者として精進したいと思います。この度は、多くの気づきを得られた貴重な機会に感謝しております。

野瀬由季子(大阪大学 博士後期課程)

守屋亮(早稲田大学 博士後期課程)

CAJLE 年次大会への参加は今回が初めてでしたが、ビクトリアという彩り豊かな美しい町で、日本語教育やその他関連領域の先生方との意見交換が実現した本大会は、我々の研究活動においてかけがえのない経験となりました。大学院生アブストラクト賞優秀賞という荣誉ある賞にご選出くださった大会関係者や大会中に暖かい言葉をかけてくださった方々、そして発表に足をお運びいただいた大会参加者のみなさまに、心より感謝申し上げます。

大学も専門も異なる大学院生である2人の共同研究は、昨年2018年から始動しました。研究関心である外国語学習者の感情とそのための支援についての研究の重要性は、日本国内外を問わずその重要性が少しずつ認識されてきています。これまで、感情が学習や教育に与える影響は調査されてきましたが、私たちの研究では、その感情がどのような背景や文脈から生じたのかに焦点を当てた調査をおこなっています。本大会では、多様な学習者の感情資本が過去から現在にかけてどのように形成されてきたのかという時間的なプロセスと、学習者が教室内活動において感情をどう制御するのかという現象としてのプロセスの双方について発表しました。発表後の質疑応答では、会場から同一のインタビューデータにTEMとM-GTAという異なる質的分析を実施したことに対する肯定的なコメントに加え、厚い記述を要する質的研究を最終的に論文としてまとめていく上での工夫や提案もいただきました。大会発表前より、様々な方から大学院生2人で研究をはじめた経緯や今後の研究の展望について大きな関心を寄せていただいたことは大変光栄でした。特に、質的研究として用いられている分析方法の違いをさらに理解したいという声も多く聞かれ、本研究においてもこれらの分析方法を適切に用いながらデータ分析を進めていく重要性も再認識しました。なにより、今回の大会参加を通して、多くの研究者・実践者が、学習者の感情支援やそれに関する研究に期待を寄せてくださっていることを肌で感じられたのは貴重な学びでした。

まだまだ未熟な2人ですが、みなさまからいただいた意見や激励を糧に今後、研究と実践を有機的につなげていく存在になれるよう、邁進してまいります。今後とも、ご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。素晴らしい機会をありがとうございました。

CAJLE ビクトリア大会 PROCEEDINGS のウェブ掲載について

大会 Proceedings をウェブに掲載いたしました。今回の論文数は41本です。

Proceedings は以下からご覧いただけます。

Home (<http://www.cajle.info/>) → Publications をクリック → Conference Proceedings をクリック

また、講演資料は[会員限定エリア](#)にてご覧になることができます。

特集記事 日本語能力試験

日本語学習者にとって、日本語能力試験は一つの目標であり、学習意欲を駆り立てるきっかけにもなっているのではないのでしょうか。特に日本語能力試験のN1、N2は日本語学習者であれば一度は憧れるもの。カナダ国内ではバンクーバー、トロント、エドモントンで開催されていましたが、今年からオタワ市のカールトン大学で受験が可能になり、カナダでの受験者数が増加することが期待されています。今回は今年で45年目を迎えるこの試験の合格者アンケートを行ないました。

本特集では日本語能力試験の概要と、トロントにある日本語学校「にほんごラウンジ」での試験対策講座について、N1、N2に合格した学習者の体験談についてご紹介します。—編集部

試験の概要

国際交流基金トロント日本文化センター

日本語能力試験は、日本語を母語としない人たちの日本語能力を測定し認定する試験として、1984年に、国際交流基金と日本国際教育支援協会（当時：日本国際教育協会）の2団体が共催で開始しました。試験開始初年度は15か国で実施され、約7,000人が受験しました。2018年には世界86か国・地域で100万人を超える人々が受験する世界最大規模の日本語試験になりました。

カナダにおいては、1992年よりバンクーバーにおいて試験が開始され、2019年よりオタワでの実施も始まり、4都市で日本語能力試験の受験が可能です。

2018年度のカナダでの応募者数は、7月試験が186名、12月試験が1,175名で合計1,361名、受験者数は7月試験が138名、12月試験が983名で、合計1,121名が受験しました。各受験会場のレベル別受験者数は以下のサイトに記載されています。

日本語能力試験 過去の試験データ：<https://www.jlpt.jp/statistics/archive.html>

受験日は世界共通ですが、毎年、日にちが変わります。受験応募受付は各実施機関において行なわれ、受験応募受付方法も各実施機関により異なりますので、受験希望都市の実施機関に直接お問い合わせください。

カナダの日本語能力試験実施会場：

- オタワ：カールトン大学（12月試験のみ実施）
<https://carleton.ca/slals/modern-languages/japanese/jlpt/>
- トロント：ヨーク大学（12月試験のみ実施）
<http://buna.yorku.ca/jlpt/>
- エドモントン：アルバータ大学（7月、12月試験実施）
<https://www.ualberta.ca/ptjc/student-programs/jlpt>
- バンクーバー：ランガラ・カレッジ（12月試験のみ実施）
<https://langara.ca/continuing-studies/programs-and-courses/programs/japanese-language-proficiency-test/index.html>

受験料：70カナダドル

受験日：***受験年によって異なりますので、予め、各実施機関、または国際交流基金トロント日本文化センターのウェブサイトにてご確認ください。**

2019年度7月試験：7月7日（日） 2019年度12月試験：12月1日（日）

受験応募期間：***受験年によって異なりますので、予め、各実施機関、または国際交流基金トロント日本文化センターのサイトにてご確認ください。**

2019年度7月試験：3月4日—4月5日 2019年度12月試験：9月1日—10月4日

日本語能力試験の試験科目、時間、問題の構成、問題例、参考資料等は以下のサイトをご覧ください。

日本語能力試験 公式サイト：<https://www.jlpt.jp/index.html>

国際交流基金トロント日本文化センター 日本語能力試験：<https://jftor.org/language/jlpt/>

試験対策講座

にほんごラウンジ 松本朋子代表

にほんごラウンジでは、今年9月より JLPT・N5 対策クラスを開始しました。こちらのクラスは年に5回開講し、各クラス共に全8回の講義で構成されています。授業内容は、①文字・語彙、②文法、③読解、④聴解の4項目に分け、各項目ごとに1時間半の授業を2回ずつ（計8回/12時間）行っております。授業では、実際の各問題を時間を測りながら学習者に解答してもらい、解答時間までの時間配分の練習を行うほか、答え合わせの際にもその問題の中で使われている正答以外の語彙や問題文、また文章などで使われている文法にも着目し、その解説も交えた試験対策を行っております。受講者の方々は20代から70代と幅広い年齢層で、今年の受験に照準を当てて勉強されている方、来年の受験に備えて受講されている方、受験が目的ではなく、JLPTの学習を通して日本語能力のレベルアップを図って来られている方と、各個人様々な目的でこの対策クラスを受講をされています。来年の1月からはN4・対策クラスの開講も決まり、年々増え続けるJLPTの受験者数を裏付けるように、学習者のJLPT受験への関心の高さが強く感じられます。

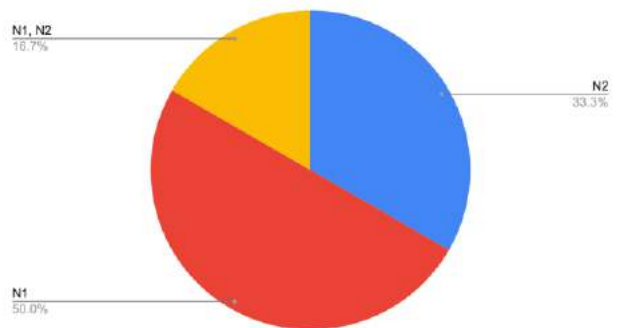
日本語能力検定試験合格者アンケート

アンケートの対象はN1とN2合格者で、今回12名から大変興味深い回答が寄せられました。ご協力いただきました皆様どうもありがとうございました。

どのレベルに合格したかの質問に対し、N1合格者は6名、N1&N2合格者は2名、N2合格者は4名でした。

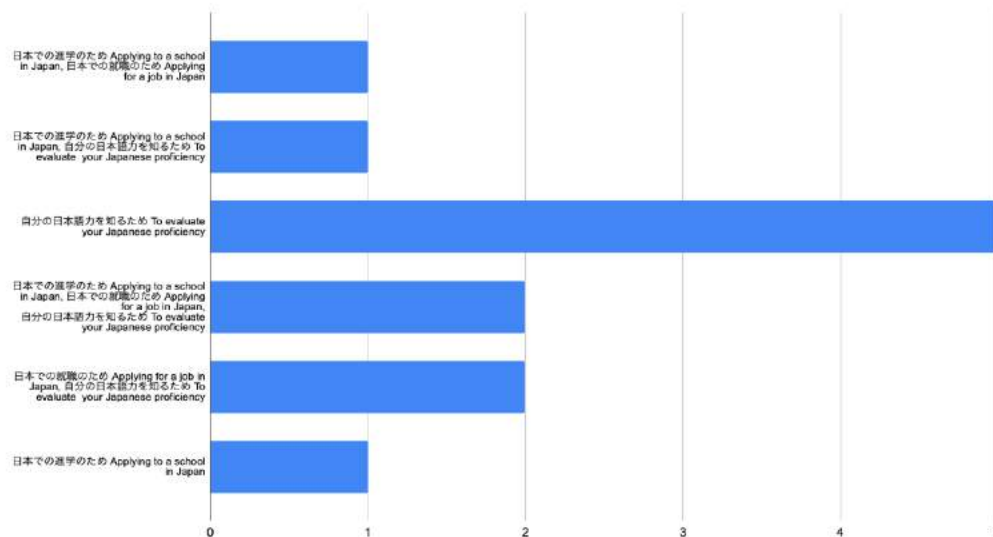
次にどこで日本語を勉強したかの質問に対しては、ほとんどの合格者が高校または大学で日本語を勉強していたと回答しました。

合格したJLPTのレベル: What level did you pass?



受験の動機は日本での進学のための5名、自分の日本語の能力を測るための5名、日本での就職のための2名で、明確な目的のために受験した人が多かったようです。

受験の目的は何でしたか? What was your purpose of writing the JLPT test?



試験勉強のアドバイスとして以下の回答が寄せられました。

- 語彙力と文法力も大切なのですが、読解と聴解をちゃんと学習しないと受験が意外と難しくなります。読解の方が時間がかかりますので、読むスピードを速め、文章の中で速やかに情報を取ることが非常に大切だと思います。
- テスト前に文法語彙及びリーディングの模擬テストを何回もやったほうがいいと思います。そしてリスニングを練習するほうがいいと思います。N2はどうかのかわかりませんが、N1のリスニングが相当長いです。そして問題も書かれていません。全部リスニングです。
- Read different genre of Japanese material to prepare for the reading part, besides memorizing the vocabulary and grammar for N1.
- いつも日本の歌を聞いたり映画やアニメを見て、作文を書いたら日本語のレベルも上がります。本を読むのは難しいですが一番役に立つと思います。テストの時はたくさんの文章があつて時間が足りないので普段文章を読む練習は大事です。
- 読解が重要ですから語彙や漢字をたくさん覚えるといいと思います。最近、文章を読んで、知らない単語を全部記録して、暗記しておくという勉強法をよくしますが、読解力がかなり上昇していると思います。できるだけたくさんの過去の試験や教材の文章を読んで語彙を増やすのはいいかもしれません。
- Watch Anime with original CV track with sub on, and record phrases that catches attention.
- Vocab and grammars are the most important parts.
- 海外の日本語学習者にとって日本のドラマやアニメから色々な表現に慣れることが大事である。
- 特定の勉強法をするより、自分なりに日本語に対する情熱を保つことの方が重要だと思う。一つのことを長く続けることで、自然に語彙を身に着けられるし、理解力も鍛えられる。陳腐な表現だが、“現状に満足しない”と“成功に近道はない、精進あるのみ”を理解すること。
- もっと読んで、もっと聞くこと。
- N1 is way harder than N2. To be honest there should be one more level between the two. I passed N2 with almost 90% but N1 I just barely passed.

役に立った参考書

- みんなの日本語
- GENKI
- 公式問題集
- 耳から覚える日本語能力試験文法トレーニング
- ラノベ
- 日本語生中継

役に立ったウェブサイト

- JLPT公式ウェブサイト
- syosetu.com
- jisho.org
- Maggie Sensei
- Japanesetest4you.com

役に立ったアプリ

- ANKI
- MOJI辞書
- MOJIテスト
- 江戸小D(app辞書)
- casio 電子辞書
- Youdao Dictionary
- jlpt文法語彙アプリ

まとめとして、日本語能力検定試験の主旨は日常生活における課題遂行のための言語コミュニケーションの能力を測るものなので、特別な受験対策をするというよりは基本的に忠実に学習を続けていくことが合格への近道であるように感じられました。

CAJLE TWITTER フォローお願いします！ @CAJLE_ACELJ

年次大会とGNプロジェクトの情報について発信していきます。



CAJLE2020 年次大会のご案内

大会実行委員長 相津頼子

テーマ：「未来へ繋ぐ日本語教育：ことばと移動、変わり続けるグローバル社会で目指すこと」

日程：2020年8月18日（火）午後・19日（水）・20日（木）

開催地：オンタリオ州オタワ市、Best Western Plus Ottawa Downtown

(<http://www.bestwesternottawa.com/the-hotel>)

基調講演・教師研修Ⅰ：川上郁雄先生（早稲田大学 教授）

特別講演Ⅰ・Ⅱ：中島和子先生（トロント大学 名誉教授）

教師研修Ⅱ：エンリカ・ピッカルド先生（トロント大学 教授、カナダ第二言語教師会）

グローバル化の進展とともに、国を超えた人の移動が増加しています。特に移民国家であるカナダでは、兼ねてより人種や文化、宗教等さまざまなバックグラウンドを持った人々が共存してきたものの、昨今は更なる多様化の拡大並びに深まりが見受けられます。日々の暮らしの中で、多様化の進展、そして変化を実感しない日はありません。学校や社会において公用語の英語、フランス語以外の言語を耳にしたり、目にしたりすることも多くあります。それぞれの国、地域から様々な理由を持ちカナダへ「移動」し現在ここでともに暮らしています。このように様々な背景を持つ人がともに暮らし変化している社会の中で、言語教育はどのような役割を果たしているのでしょうか。そして変わり続ける変化にどのように対応すべきなのでしょうか。

この大会においては、その答えを探求するためグローバル化された社会によって増え続ける複言語話者の日本語、そして日本語教育の在り方について考え学ぶ場を提供したいと望んでおります。その学びの機会として、複言語環境で育つ・育った人々を「移動する子ども」という分析概念で捉え研究なさっておられる早稲田大学教授の川上郁雄先生、そしてバイリンガル教育の権威でいらっしゃるトロント大学名誉教授の中島和子先生、それから CASLT(Canadian Association of Second Language Teachers)より、「Common European Framework of Reference」(CEFR)を取り入れた外国語教育のカリキュラムと評価をご専門となさるトロント大学教授のエンリカ・ピッカルド先生をお迎えし講演や教師研修をして頂きます。

カナダの首都オタワはオンタリオ州東部に位置し、ケベック州に隣接する事から英語とフランス語を公用語とするバイリンガル都市です。そのため、公立学校においては、英語話者の子供達は幼稚園からフランス語と英語が半分ずつのイメージプログラムに通う家庭が多く、バイリンガル・マルチリンガル教育の研究・議論・実践が盛んに行われています。また移民の街でもあり英語・フランス語以外の複言語環境に育つ・育った人たちも数多く存在します。そのような環境の中、日本語学習者の層は厚く、未就学児（継承語教育）から、大学生（外国語・継承語）、社会人（ビジネス日本語・趣味の日本語）対象にした日本語教育機関・組織があります。また、日本に在住経験のある外国人の子供たちが日本語学習を継続するケースも増えてきました。このように、マルチリンガル・バイリンガル環境の中で言語教育への関心が高いオタワで CAJLE 年次大会を開催できるのを嬉しく思います。

講演や研修、そしてこれから応募いただく研究発表を通して、変化し続ける社会の中で何を日本語教育は目指していくのか、一緒に考察できれば嬉しいです。是非 CAJLE2020、カナダの首都であるオタワでの大会へご参加ください！

ウェブサイト：<https://www.cajle.info/programs/cajle2020/>

Twitter: @CAJLE_ACELJ



PHOTO BY TOURISM OTTAWA

CAJLE2020 ANNUAL CONFERENCE

YORIKO AIZU, ORGANIZING COMMITTEE FOR THE CAJLE 2020

Theme: Japanese Language Education for the Future: Language and Mobility in a Changing Global Society

Date: August 18 (Tue) afternoon, 19 (Wed), 20 (Thu), 2020

Venue: Ottawa, Ontario, Best Western Plus Ottawa Downtown
(<http://www.bestwesternottawa.com/the-hotel>)

Keynote Lecture & Teacher Workshop I: Dr. Ikuo Kawakami (Professor, Waseda University)

Special Lectures I & II: Dr. Kazuko Nakajima (Professor Emeritus, University of Toronto)

Teacher Workshop II: Dr. Enrica Piccardo (Professor, University of Toronto, The Canadian Association of Second Language Teachers)

As globalization advances, the movement of people between countries has been increasing. This is especially true in Canada, a country of immigrants, where people from various backgrounds, races, cultures, and religions coexist. In this ever-changing society, one wonders what role language education plays. How should we and can we correspond to this diversification?

In this conference, we would like to provide an opportunity to explore and learn about the Japanese language of multilingual speakers, whose number continues to increase due to globalization, and think about how Japanese language education can contribute to them. We welcome three distinguished guest speakers: Dr. Ikuo Kawakami of Waseda University, whose research focuses on the people who grow up in a multilingual environment with the analytical concept of “children crossing borders”; Dr. Kazuko Nakajima, a professor emeritus at the University of Toronto, who is an authority on bilingual education; Dr. Enrica Piccardo of the University of Toronto as a special speaker from CASLT (Canadian Association of Second Language Teachers). We believe that their lectures and workshops will provide us significant insight and help to answer the aforementioned questions.

Ottawa is located in eastern Ontario and borders with Gatineau, Quebec. It is a bilingual city with English and French as the official languages because of its geography. Many English-speaking children attend a French immersion program at school, and much research, discussion and practice of bilingual and multilingual education are actively conducted. Many children are also immigrants and grow up in multilingual environments other than English and French. In such an environment, there are a wide range of Japanese learners at different institutions and organizations, from preschoolers (heritage language education) to university students (foreign language / heritage language) and working adults (business Japanese / hobby Japanese). We are delighted to host the CAJLE Annual Conference here in Ottawa where great interest in language education exists in a multilingual and bilingual environment. We are looking forward to your participation in CAJLE2020 in Canada's capital!

Website: <https://www.cajle.info/programs/cajle2020/>

Twitter: @CAJLE_ACELJ



PHOTO BY TOURISM OTTAWA

活動報告

日本語教師情報交換会 IN VICTORIA, BC

野呂博子(ビクトリア大学)

CAJLE 2019 プレ大会イベントとして、日本語教師情報交換会がビクトリア大学で、開催されました。「体験学習」という大きな括りで、日頃日本語教育に携わっていらっしゃる方々と、地域の枠を超えて、経験、課題などを共有する機会を得ました。地元ビクトリア、カナダ各地、アメリカ、日本、中国から日本語教育にかかわっていらっしゃる方々が40名近く参加し、活発な意見の交換をしてくださいました。

はじめに地元 St. Margaret's School で長年、日本語教育に携わっていらっしゃる羽瀨三千江先生がご自身の「体験学習」の例を紹介してくださいました。日本に行かなくても、地元の日本コミュニティとの繋がりを活用した素晴らしい学習活動の数々がありました。実際にラーメン屋さんに電話をして予約をする、そして日本の文化とことばを融合した大きなプロジェクトとしては、茶道教室に参加して、日本語のみで学ぶ、といった、非常にクリエイティブな試みです。

わたしは、日本滞在型体験学習の一例として、兵庫県城崎で行なっている日本語フィールドスクールをご紹介させていただきました。

羽瀨先生と私の発表後、グループに分かれて、「体験学習」に関する経験と課題を共有してもらいました。そこで、いろいろな共通のテーマが洗い出されました。コミュニティとのつながりの重要性、学生全員が日本に行く経済的余裕がない現状をふまえた工夫の必要性、また天災などもふくめ滞在型体験学習のリスクマネジメント、最近のテクノロジーの活用、など、各グループのみなさんが活発に意見を交換しているのが印象的でした。予定されていた2時間があっという間にすぎてしまい、今後さらに議論が必要となるテーマではないかと思いました。

継承語オンラインネットワーク

CAJLE は国際交流基金トロント日本文化センターと共催で、2019 年度から「継承語オンラインネットワーク」を始めました。

カナダの継承語としての日本語教育の歴史は、日本人移民の流入が始まった 1900 年代初頭まで遡ります。1967 年の移民法改正後には再び多くの日本人が新移民としてカナダに移住し、その数年後から自分の子供たちに日本語を継承させたいという思いで、多くの継承日本語学校が設立されました。2000 年代には国際結婚や新移住家族が増え、再び継承日本語教育が求められる時代になっています。また、日本食、アニメ、ゲーム、ファッションなどで日本文化が広く認められ、それにつれ日本語を学びたいというカナダ人も増えています。こうした背景を受け、カナダ各地に新たに継承語教育機関・グループができていますが、その規模は小さく、運営も非常に難しく、保護者による手作りの運営を行っているケースも多いようです。

そこで、継承語オンラインネットワークでは、そうした機関・グループをつなぐネットワークを作り、情報、ノウハウの共有、相談ができる場を提供いたします。カナダ在住の教師、研究者、保護者、運営者など継承日本語にかかわっている、もしくは継承日本語に関心のある方であればどなたでも参加できるオンラインネットワークです。このようなネットワークは、教師、研究者が中心となり、どのように教えるか、どのような教材がよいかに話題が集まりやすいものですが、それだけに限定せず、子供達にあった教育ができていないか、保護者は何を望んでいるか、運営を継続できるか、などの悩みについても相談、意見交換できる場を目指しており、年 2 回の予定で継続していきます。

第一回は、2019 年 6 月 20 日午後 8 時 (ET)、ZOOM オンライン会議システムを通じて開催しました。初回はキングストン日本語教室とトロント補習授業校の学校紹介を行い、その後少人数グループに分かれてのディスカッションを行い、広大なカナダに点在する継承教育機関それぞれで、どのような教育、指導、運営、工夫が行われており、どのような苦労、悩みをもっているかを知る機会となりました。

第二回は、12 月 17 日 (火) 午後 7 時—午後 9 時 (ET) に開催します。

カナダ在住でご興味のある方はどなたでも参加可能です。

申し込みリンク：<https://jftor.org/event/keishogo2/>

—学校紹介—

今回の「学校紹介」は、今年度年次大会が開かれたブリティッシュコロンビア州より JLC ビクトリア日本語幼稚園、そして来年度年次大会が開かれるオンタリオ州よりガティノー読み聞かせ会をご紹介します。 — 編集部

BC 州 JLC ビクトリア日本語幼稚園

井上 文子

JLC ビクトリア日本語幼稚園は、2018年にBC州認可幼稚園として開園した、ビクトリア地域初の日本語幼稚園です。ビクトリアで子育てをする親として、また日本語教師としてバイリンガル教育に携わってきた二人が「日本にルーツを持つ子供たちがしっかりと日本語の基礎を築き、継続して学べる場所を作りたい」という思いでJLC ビクトリアを立ち上げました。

子供たちが現地で学校に通い始め、英語漬けになる前の“プリスクールエイジ”で、しっかりと日本語の基礎を身につけるプログラムを目標に、“ジャパニーズイマージョンプリスクールプログラム”を2018年に開始しました。教師はもちろん、子供同士のコミュニケーションも日本語で行われ、日本からのおもちゃや教材を豊富に使用して、子供たちが日常的に目や耳でも日本を感じることでできる環境作りを行っています。また、子供たちが日本文化を肌で感じ、日本との自然な関係を築いていけるよう、日本の季節行事（お月見、お正月、節分、ひな祭り、こどもの日など）には、子供たちが家族と一緒に、実際に様々なアクティビティを体験できるイベントを実施しています。

さらに、2019年には、日本語継承を望まれている日系カナダ人のご家族や多文化教育に関心のあるご家族をサポートするプログラムとして、赤ちゃんクラスを開始しました。保護者と赤ちゃんが日本語幼稚園への入園を目指す準備クラスとして、日本語でのコミュニケーションを親子で学ぶクラスを実施しています。また、日本語幼稚園で学んだ子供たちが、卒園後も継続してお友達と日本語で過ごせる場所を提供していくために、日本語アフタースクールプログラムや日本語サマーキャンプを企画、2019年より実施しています。

現在、幼稚園には17名の園児が通っており、今年から開始した赤ちゃんプログラムとアフタースクールプログラムは、8名までの少人数で開始しています。幼稚園やアフタースクールプログラムの生徒は、保護者のいずれかが日本からの移民という場合がほとんどですが、日系カナダ人や多文化教育に関心のあるご家族からの問い合わせも多く、日本語を母語としない保護者を持つ子供たちの申込み、この1年で10件以上ありました。

JLC ビクトリアのモットーは、子供たちが楽しみながら日本語を使ってくれる環境作り。子供たちが日本語で過ごす環境に喜んで入ってきてくれるような楽しいアクティビティを提供するため、日々努力を重ね、コミュニティとともに成長していけたらと願っています。

ガティノー読み聞かせ会

ハリス はるな

「ガティノー読み聞かせ会」は英語圏のオンタリオ州オタワ市と、橋を一つ超えてあるフランス語圏のケベック州ガティノー市近郊在住の、0～4歳の未就学児を育てている家族、及び妊婦家族を対象とし、会員によるボランティアで運営している日本語の絵本・育児サークルです。現在、登録会員数は、17家族23名です。

2012年に、会の発足者である朴正恩(Chong-Eun Park)さんがガティノー市立図書館に移住者家庭の子ども達を対象に母語で行う読み聞かせサービスの提案をし、2013年に日本大使館の協力のもとパイロットプロジェクトとして実施することとなりました。図書館から場所や玩具の提供、伊藤忠財団や保護者からの絵本の寄付をいただき、現在に至っています。朴さんはパイロットプロジェクトを実施するにあたり色々な家族にインタビューを行い、そこでほとんどの日本人の親が継承語をどのようにして伝えていくかという悩みを抱えていることを知りました。例えば国際結婚の家庭の中で、親が一人で子供たちに日本語を話し、教えていても限界があって諦めてしまったり、疎外感を感じてしまったり、パートナーに申し訳なく思ったりあまり話さなくなってしまうような

場合が多く見受けられます。そのような子育て真っ最中の保護者を支え、ネットワークを作る力になり、お互いを助け合ったり意見交換をしたりする場としての会の方向性が定められていきました。

この会を通して、子供への継承言語教育だけでなく、親としても母語で子育てをすることで、しつけがしやすくなったり、親子の親密な関係を築くことができます。また、ボランティアとして絵本を読んだりアクティビティを子ども達の前でしたりすることにより達成感を得て親自身の自信に繋がり、いつかカナダで社会進出をする時の土台を作るお手伝いをすることもできます。更に、年に数回行われている先輩の話聞く会により、子育ての意見交換をしたり、縦のつながりを作ることもできます。読み聞かせ会はこうして、子ども達だけでなく、その親たちのことも支えていくために発足、運営されてきました。こうした思いを受け継ぎ、現在は会員の保護者が運営・企画を引き継ぎ、毎月二回土曜日の午前中に90分ほど集まっています。

読み聞かせ会では、言語習得だけではなく、豊かな心を育む絵本読み聞かせの時間を地域の日本語を話すお友達と共有し、もっともっと子どもたちが絵本を好きになるお手伝いができるように、より多くの保護者たちに絵本を読んでもらっています。土曜日に会が行われているため、日本語話者である親だけでなく、非日本語話者のパートナーも参加がしやすく、会を通して新しい歌や言葉を学び、継承語教育の大切さを理解してもらえる場となっています。活動は全て日本語で行われ、絵本の読み聞かせを中心として、手遊び歌や季節ごとのクラフト、親子のふれあいアクティビティなどを参加者同士で協力しながら実施しています。

月によって祝日や日本の伝統行事を取り入れた活動も行っています。子ども達は絵本を見るのも大好きですが、特別なイベントの日は特に楽しそうにしています。非日本語話者のお父さんが鬼に扮して行った節分イベントは大好評でした！絵本も毎回約4冊読んでいますが、途中でアクティビティや休憩時間を挟むことにより、子ども達の集中力を継続させてより良い時間を過ごせるようにしています。

国際交流基金コーナー

村上 吉文

国際交流基金派遣日本語上級専門家、アルバータ州教育省日本語教育アドバイザー

カナダ日本語教育振興協会の皆さま

早いもので僕の任期も残り半年を切りました。

これまでカルガリー、ロンドン、ビクトリアでの3回の年次大会を始め、さまざまな機会に皆さまにお会いし、貴重なお話を伺うことができたことに、たいへん感謝しております。

また国際交流基金トロント日本文化センターが主催するオンライン講演会にも、CAJLE 会員の皆さまに視聴者としてはもちろん、ゲスト講師としてもご参加いただくことができ、ありがとうございました。Zoomによるオンライン講演会は僕にとってもほとんど経験がない世界だったので、皆さまと一緒に新しい世界を見ることができたことをたいへん光栄に思っております。

Facebookの「カナダで日本語を教える人たち」(<https://www.facebook.com/groups/813272275489172/>)のグループは今後も顔を出していきたいと思っておりますし、Twitterのアカウント「@midogonpapa」は今後も変わらず運用していきたいと思っておりますので、これで縁が切れるわけではないものと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

呉屋由郁子

国際交流基金トロント日本文化センター

本年11月よりトロント日本文化センターの日本語常勤講師/日本語教育アドバイザーとして着任いたしました。呉屋由郁子（ごやゆいこ）と申します。沖縄県の日本語学校やイスタンブールの大学での日本語講師を経て、トロントへ参りました。これから、カナダの日本語教育界の大きな輪に加わらせていただけることに、喜びを感じております。教師研修等の業務は初めてですので、不慣れなこと、至らないこともあるかと存じますが、当センターの一員として、カナダの日本語教育の発展に貢献できるよう、誠意を持って努めて参ります。ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2020 年度 国際交流基金トロント日本文化センター (JFT) 日本語教育ローカル・グラント・プログラムの申請開始のお知らせ

JFT 日本語教育ローカル・グラント・プログラムは、カナダにおける日本語教育の普及・発展に必要な様々な活動への支援を通して、カナダでの日本語教育を促進することを目的としています。詳細は、以下のサイトをご確認ください。http://jftor.org/language/jl_grants/

— CAJLE よりお知らせ —

年次総会議事録・会計報告 書記

2019 年度の CAJLE 年次大会はブリティッシュ・コロンビア州ビクトリア大学にて 8 月 6・7 日の 2 日間に渡り開催され、年次総会は 6 日に行われました。年次総会議事録と会計報告は CAJLE ウェブサイト会員専用ページ Member's Area にてご覧いただけます。会員専用ページへはウェブサイト右側の「ログイン Sign In」からアクセスください。
<http://www.cajle.info/>

ジャーナル CAJLE20 号 ジャーナル編集部

ジャーナル CAJLE 20 号が発行になりました。こちらからご覧ください。
We are pleased to announce that Vol. 20 of Journal CAJLE is available online.
<http://www.cajle.info/publications/journal-cajle/>

地域研修会支援金について REGIONAL WORKSHOP/MEETING SUPPORT FUND

2014 年 10 月に始まった CAJLE 地域研修会支援金は、カナダ全域の日本語教育活性化につながる活動を支援するための助成金です。これまで BC 州バンクーバー、SK 州レジャイナ、ON 州ロンドン、ON 州オタワ、とさまざまな地域において研修会・情報交換会が実施されてきました。会員自らが企画する地域のニーズに応じた教師研修や教師間のネットワーク作りを支援いたします。詳細は[こちら](#)をご覧ください。皆様からのお申し込みをお待ちしております。(広報担当)

In October 2014, CAJLE introduced the Regional Workshop/Meeting Support Fund, and this has allowed broad-ranged activities that assist with the growth of Japanese language education in Canada. Workshops have been held in various regions such as Vancouver, Regina, London, and Ottawa. This fund will enable members to plan and create their own instructor training, as well as networking meetings that suit regional needs. Please see the [website](#) for more information. We look forward to receiving your application. (Public Relations)

CAJLE2019 年度上半期活動報告

書記 白川理恵、安達いづみ

理事会担当報告及び承認事項

2019 年	
6 月 1 日	ニュースレター58 号発行
6 月 12 日	2019 年度第 1 回オンライン理事会開催
6 月 20 日	「第 1 回継承語オンラインネットワーク」共催:国際交流基金トロント
7 月 22 日	ジャーナル CAJLE のメインページをアップデート
7 月 24 日	「継続」シリーズ第 30 回 「日本語教師 EdCamp」開催
7 月 25 日	2019 年度第 2 回臨時オンライン理事会開催
7 月 31 日	ジャーナル 20 号公開
8 月 5 日	第 3 回理事会開催 日本語教師情報交換会(CAJLE2019 年次プレ大会イベント)
8 月 6~7 日	CAJLE2019 年次大会開催「表現リテラシー:コミュニケーションから考える多文化社会の日本語教育」開催地:ブリティッシュコロンビア州ビクトリア大学 後援: Consulate-General of Japan in Vancouver, The Japan Foundation, University of Victoria, Centre for Asia-Pacific Initiatives, University of Victoria, Department of Pacific and Asian Studies, University of Victoria, Division of Continuing Studies, University of Victoria, Faculty of Humanities, University of Victoria, Prince Takamado Japan Centre for Teaching and Research, The Canadian Association of Second Language Teachers, Nippon Express Canada, Kintetsu International Express (Canada) Inc., Blue Tree Management Ltd., Sen Zushi Japanese Restaurant, Victoria Nikkei Cultural Association 基調講演: 平田オリザ先生(劇作家・演出家・青年団主宰、大阪大学 CO*デザインセンター特任教授、東京藝術大学 COI 研究推進機構特任教授、国際観光芸術専門職大学(仮称)2021 年学長就任予定)「演劇的手法を使ったコミュニケーション教育の進展」、教師研修 I: Wendy Carr 先生(ブリティッシュコロンビア大学、カナダ第二言語教師会)「教室を超えた言語教育:コミュニケーションの機会を作り活用するために」、教師研修 II: 村上吉文先生(国際交流基金・アルバータ州教育省)「ソーシャルメディアの自己表現」、教師研修 III: 平田オリザ先生「言語教育に演劇的ワークショップを導入する意義 - 理論と実践」
8 月 6 日	年次総会開催 ・2019 年度公認会計士税理士は Chaplin & Co. 会計事務所に引き続き依頼することが承認された。 ・2018 年度の決算報告が承認された。 ・東プリクリル陽子氏が新理事として承認された。 ・来年の年次大会の日程と開催地が発表された。2020 年 8 月 18-20 日 開催地: Best Western Plus Ottawa Downtown (オンタリオ州オタワ)
8 月 9 日	日本語教育グローバルネットワークプロジェクト 日本語教育ワークショップ「セカイの日本語~みんなの声~」: 日本語使用者の言語と経験の多様性に対する理解促進のためのリソースを使ってみよう 開催地: バンクーバー日本語学校

8月30日	ヨーロッパ日本語教師会に理事の柴田氏が参加。日本語教育グローバルネットワークプロジェクト「セカイの日本語～みんなの声～」について発表 開催地:セルビア・ベオグラード大学
9月11日	2019年度第4回臨時オンライン理事会開催
9月27日	2019 CASLT Annual General Meeting (AGM) and 17th Networking Day in Ottawa 理事の林氏が出席
10月7日	CAJLE2019のProceedingsをウェブに掲載
10月9日	第5回オンライン理事会開催

編集後記

◆ 特集記事での日本語能力試験合格者アンケートでは、学生たちが授業外でコツコツと健気に勉強している姿が見受けられ、感心すると同時に、教師として全然サポートできていないことに反省。まずは、学生に合格者からのアドバイスを伝えていきたい。ともあれ、このニュースレターが発行される今日、カナダの4都市で日本語能力試験が実施されている。受験者皆様のご健闘を祈ります！（紅@倫敦）◆ ニュースレターを見ながら、今年も日本語教育を通してたくさんの方にお会いした年だったと改めて思いました。2020年も素敵な出会いがたくさんありますように。皆さま、良いお年を。（123@薩斯卡通）◆ 今回の学校紹介により将来を担っていく子供たちへの日本語教育への取り組みの大切さ、大変さが伝わってきた。継承語教育の第一人者である中島先生の受賞という嬉しいニュースと合わせて世の中の大きな流れを感じる号となった(猫婦人@北晚香波)◆ 今回よりNL編集に参加。カナダでの日本語教育が様々な形で次年代に広がっていることを感じてもらえればと思う。(島人@維多利亞)

CAJLE ニュースレター編集部ではコメントや日本語教育に関するご意見など皆様からの投稿を歓迎します。お気軽に編集部 CAJLE.PR@gmail.com までメールをお寄せ下さい。
CAJLE newsletter editorial board welcomes comments and opinions that address issues related to Japanese language education. Please email us at CAJLE.PR@gmail.com

カナダ日本語教育振興会
Canadian Association for Japanese Language Education
P. O. Box 75133
20 Bloor St. East Toronto, Ontario M4W 3T3 Canada
Web: <http://www.cajle.info/>

会員規定 - Membership

カナダ日本語教育振興会は、カナダにおける日本語教育の発展と向上を目指す非営利組織です。日本語教育に関心のある方ならどなたでも会員として登録することができます。

会員特典

- ・カナダの日本語教育情報満載のニュースレター(年2回発行)
- ・日本語教育関係の各種ご案内
- ・年次大会、勉強会、その他の催しの参加費割引
- ・ジャーナル CAJLE(査読付き)への投稿資格
- ・年次大会での研究発表資格
- ・The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) 会員登録の割引適用:年会費 \$15 (通常\$45)

会費年度

毎年1月1日から12月31日まで。

会員の種類

一般会員(1年)	\$ 45 CAD
一般会員(3年)	\$ 120 CAD
学生会員(1年)	\$ 30 CAD
組織会員(1年、4名まで*)	\$ 120 CAD

*全員が同じ組織に所属していること。4名を超える場合、以降1名追加ごとに\$30お支払いいただきます。

CAJLEホームページのメンバーシップページ(About us)より、オンラインにてお申し込みいただけます。

小切手もしくは銀行振込によるお支払いをご希望される方は、会員申込書をご記入の上、メールまたは郵送でお送りください。

申込書、お支払い方法についてはホームページをご覧ください。<http://www.jp.cajle.info/>

申込先:

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

※連絡先の変更

住所およびメールアドレス等の変更があった場合にはこちらまでお知らせください。cajle.kaikei@gmail.com

CAJLE is a non-profit organization which actively promotes Japanese language education in Canada. We welcome everyone who is interested in Japanese language education.

CAJLE membership entitles you to:

CAJLE membership entitles you to:

- Receive the CAJLE Newsletter full of information about Japanese Language Education in Canada (two issues annually)
- Receive various announcements related to Japanese education via email.
- Attend the CAJLE annual conference, workshops and other related events at a reduced rate.
- Present research at the CAJLE annual conference
- Submit manuscripts for Journal CAJLE (peer-reviewed)
- Special rate for The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) membership. (Affiliate Individual Membership is \$15, instead of Regular Individual Membership \$45)

Term of Membership:

The term of membership runs from January 1 of each year through December 31.

Membership Categories:

Regular Membership (1 year)	\$ 45 CAD
Regular Membership (3 years)	\$ 120 CAD
Student Membership (1 year)	\$ 30 CAD
Institutional Membership (1 year, Up to 4 members*)	\$ 120 CAD

*All members must belong to the same institution. If there are more than four members desiring membership, each can be added by paying \$30 for each additional person.

Please visit our website and open "Membership" page through "About us". Please fill out the online form and complete the payment procedure through paypal. For those who wish to pay by personal check or bank transfer, please fill out the application form (available on www.cajle.info) and mail or email it with the appropriate membership fee.

Mail to:

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

Please notify us at the following email address if your contact information changes: cajle.kaikei@gmail.com

CAJLE 2020 年次大会研究発表募集
Call For Proposals for CAJLE 2020 Annual Conference
(You will find the English version below.)

CAJLE (Canadian Association for Japanese Language Education: カナダ日本語教育振興会) は一年に一回、講演、教師研修、研究論文発表、総会、懇親会などを組み入れた大会を開催しています。日本語教育、日本語学に関する情報や意見を交換し、参加者同士が親睦を深めながら学ぶ貴重な場となっています。次回 2020 年の年次大会は、下記の通り、オンタリオ州のオタワにて開催されます。その他、詳細な情報は CAJLE ウェブサイト (www.cajle.info) にて更新します。

大会テーマ: 「未来へ繋ぐ日本語教育: ことばと移動、変わり続けるグローバル社会で目指すこと」
日程: 2020 年 8 月 18 日 (火) 午後、19 日 (水)、20 日 (木)
開催地: オンタリオ州オタワ市、Best Western Plus Ottawa Downtown
(<http://www.bestwesternottawa.com/the-hotel>)

基調講演・教師研修 II: 川上郁雄先生 (早稲田大学大学院日本語教育研究科 教授)
特別講演 I・II: 中島和子先生 (トロント大学 名誉教授)
教師研修 II: エンリカ・ピッカルド先生 (トロント大学 教授、CASLT 講師)

研究発表は、大会テーマに関わる発表を歓迎しますが、他に日本語教育、日本語学、継承語教育などの理論的考察、実践報告、また教材開発などを扱ったものなど幅広く募集いたします。発表は、口頭発表 (発表 20 分、質疑応答 10 分)、ポスター発表 (90 分の発表時間の予定)、ラウンドテーブル・ディスカッションを募集いたします。ラウンドテーブル・ディスカッションでは話題提供者が 2~5 人、時間は 60 分です。話題提供者の問題提起が 15 分、参加者全員による意見交換が 40 分、話題提供者によるセッションの振り返りが 5 分とします (ラウンドテーブルガイドラインは[こちら](#))。

発表言語は口頭発表・ポスター発表・ラウンドテーブルのいずれも日本語、英語、あるいはフランス語とし、アブストラクトの言語を発表言語とします。

応募資格

発表者は当会会員に限ります。共同発表者も含め応募時に入会手続きがお済みでない場合は、選考の対象となりませんので、ご注意ください。 入会案内は[こちら](#)をご覧ください。なお、共同発表を含めて、応募は一人一題までとします。

大学院生への補助

本年度はこれまでと異なり、賞を設けませんが、大学院生 (大会全日程への参加、発表、proceedings 提出が必須) を対象に一定金額の大会参加補助を考えております。なお、この補助とは別に、高円宮センターで大学院生のための奨学金制度が設置される予定です。その制度の詳細については来春以降にお知らせする予定です。

応募方法 (口頭発表・ポスター発表・ラウンドテーブルとも)

以下の項目を[会員ページのオンライン応募受付サイト](#)にご記入下さい。会員ページへのログインは[こちら](#)です。なお、応募時の要旨は、大会 HP と大会当日の配布資料に掲載されます。

- 1) 発表題目: 日本語と英語、または日本語と仏語。
- 2) 発表要旨: **発表言語で作成**。日本語要旨は 700 字以内、英語・仏語要旨は 350 語以内。また、応募者が特定されるような情報の記載は避けてください。
- 3) 発表の分野 (日本語教育、言語学、継承語教育、その他)
- 4) 発表者氏名 (日本語とローマ字で筆頭・共同発表者全員のもの) *** ラウンドテーブルは 2 名以上で申し込む。**
- 5) 所属 (日本語と英語、または日本語と仏語で筆頭・共同発表者全員のもの)。
- 6) 希望する発表形態 (口頭発表希望・ポスター発表希望・ラウンドテーブル希望のいずれか) *** 選考の結果、口頭発表/ポスター発表についてはご希望に添えない場合もあります。**
- 7) メールアドレス (発表者全員のもの)

締切：2020年4月20日（月）＊オンラインの応募受付は2020年1月末開始予定。
採否通知：2020年5月11日（月）

大会後 Proceedings を CAJLE ホームページで公開します。前大会までの proceedings は[こちら](#)からご覧になれます。

CAJLE 2019 年次大会 Proceedings のガイドライン（詳細は近日中に CAJLE Homepage に掲載）

長さ：枚数 4 枚～10 枚

提出締め切り：2020年9月7日（月）必着

なお、大会発表からジャーナル投稿にふさわしい研究を選抜し [Journal CAJLE](#) vol. 22（2021年夏発行予定、査読審査付）への投稿案内をいたします。

CALL FOR PROPOSALS:

CAJLE (Canadian Association for Japanese Language Education) 2020 Annual Conference

CAJLE (Canadian Association for Japanese Language Education) holds an annual conference which includes lectures and workshops by guest speakers, as well as research presentations and a general meeting. The conference provides a great opportunity for participants to exchange information and opinions on Japanese language education and Japanese linguistics. The CAJLE 2020 Annual Conference will take place at Best Western Plus Ottawa Downtown in Ottawa Ontario. More information will be posted on CAJLE website (<http://www.cajle.info/>).

Theme: Japanese language education for the future: language and mobility in a changing global society

Conference Date: August 18 (Tuesday) afternoon, August 19 (Wednesday), August 20 (Thursday), 2020

Conference Venue: Best Western Plus Ottawa Downtown, Ottawa, Ontario
(<http://www.bestwesternottawa.com/the-hotel>)

Keynote Address & Teacher Workshop I: Dr. Ikuo Kawakami (Professor, Waseda University Graduate School of Japanese Applied Linguistics)

Special lectures I, II: Dr. Kazuko Nakajima (Emeritus Professor, University of Toronto)

Teacher Workshop II: Dr. Enrica Piccardo (Associate Professor, Ontario Institute for Studies in Education, University of Toronto)

Abstract Submission Deadline: Monday, April 20, 2020 (*The online proposal submission site will open around the end of January 2020.)

Notification of Acceptance: Monday, May 11, 2020

We invite submission of abstracts for **paper presentations and poster presentations** on topics including, but not limited to, Japanese linguistics, Japanese language pedagogy, Japanese as a heritage language, as well as innovative teaching techniques. **Submissions related to the conference theme are especially welcome.** The allocated time for each presentation is 30 minutes (20 minutes for presentation and 10 minutes for discussion), and posters will be presented in a 90-minute poster session.

For CAJLE 2020 Annual Conference, we also invite submissions of abstracts for **roundtable discussion**, in addition to abstracts for paper and poster presentations. For the roundtable, a group of 2-5 presenters can submit a proposal. One roundtable discussion is given 60 minutes: 15 minute presentation by presenters followed by 40 minutes of group discussion and 5 minutes of summary and feedback by the presenters/facilitators ([Instructions for the submission](#)).

Presentations may be given in either Japanese, English or French with the abstract in the language of the presentation.

Individuals may submit only one proposal as presenters or co-presenters. **Presenters, including co-presenters, must be members of CAJLE. Non-members will be required to submit a membership application prior to submitting a proposal.** Membership information is [here](#).

Support for Graduate Students

This year, we will NOT institute the Abstract Awards for graduate students, but we will still provide monetary support for graduate students. The recipients of this financial aid must attend the entire conference (two days), present their papers, and submit the proceedings.

Please submit your proposal via **the Online Proposal Submission form** in the CAJLE member-only website. To access to the member-only site, please sign in from [here](#).

- 1) Paper title (in both Japanese and English or in both Japanese and French)
- 2) Abstract: 700 letters in Japanese or 350 words in English/French. Please do not include any type of information that can identify the applicant.
- 3) Area of your study/research (Japanese pedagogy, Linguistics, Heritage Language Education, Others)
- 4) Name(s) of the presenter(s) (in both Japanese and English, or in both Japanese and French; list all co-presenters),
- 5) Affiliation (in both Japanese and English, or in both Japanese and French; list each co-presenter's information),
- 6) Preference for presentation type: please indicate either "oral presentation preferred," "poster presentation preferred," or "round table". We will accommodate preferences as space allows.
- 7) E-mail address (of all presenters)

We will publish the conference proceedings online ([previous issues of the proceedings](#)).

Guidelines for CAJLE Conference Proceedings

The length of manuscript: 4 ~ 10 pages

Submission deadline: Monday, September 7, 2020

Also, selected presentations at the conference will be invited after the conference for submission for [Journal CAJLE](#), Volume 22 (to be published in summer of 2021). These submissions will undergo a separate review process set by the standards of the journal.